

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

平成 26 年度年報

オホーツクの『森』から



仁頃山より北見盆地を望む

発刊に当たり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園など、自然環境に恵まれ貴重な動植物を育む地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育等に取り組む企業・団体・NPO等を支援しています。

平成 26 年度の活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

自然再生モデル事業の取り組み

＜自然再生モデル事業企画運営協議会＞

オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成17年10月に発足し、毎年、自然再生モデル林で実施した活動について報告するとともに、モデル林で現地検討会を行い、今後の森林の取り扱いを議論しています。



平成17年からは、モニタリング調査を実施し、自然再生が進む森林の状況を把握しています。

平成19年からは、外来種であるストロブ人工林を郷土樹種に転換する地域でカミネッコ植樹を実施しています。

また、平成20年からは、自動撮影装置を設置して野生生物の調査も行っています。

平成26年度は11月と3月に協議会が開催され、ストロブ人工林の間伐方法など今後の取り扱いについて協議されています。

また、間伐などの森林整備は、網走中部森林管理署と連携を図り、相談しながら進めています。

この森を一世代前の針広混交林に近づけるという自然再生モデル事業の最終目標があり、針広混交林に導くための計画を協議会で議論していくこととなります。



もり 〈森林づくり塾〉

森林づくり塾は、森林管理や林業という産業の仕組みなど幅広く理解してもらうための座学や植樹・下刈りなどの林業体験を通じて森林での仕事の大変さや大切さを幅広く学び、地域の森林づくり支援者の拡充を目指して、平成21年から毎年実施しています。



今年度は、7月5日と9月20日に実施しました。



7月5日の「森林づくり塾」では、アカエゾマツ人工林の枝打ち（枝払い）を体験しました。

これは節の少ない良質な木材を作るとともに林内に光と風を入れることで健康な森林を作るために行ったものです。

また、午後からは網走市「美岬のヤチダモ」（林野庁の「森の巨人たち百選」）を見学し、自然の営みを学びました。



9月20日の「森林づくり塾」では、森林で育った木材がどのように利用されるかに役立っているかを学習するため、津別町の木材工場を見学しました。

森林に親しんでもらった人の中から森林に興味をもってくれる人が一人でも多くなり、将来的には、ボランティア活動

などに参加してくれる人が増えてくれればと願っています。

次年度も、引き続き取り組む考えです。



もり ＜オホーツクの森林づくり＞

6月28日、ボランティア団体「オホーツクの会」の会員や一般参加者による緑化活動を実施しました。

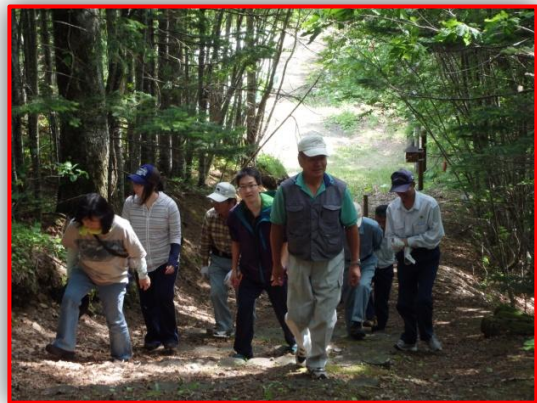
今回は植えた後の手入れの重要性を皆さんに理解してもらうため、植樹した木の生長を促す下刈作業やシカの食害から守るための防護シートの補修及び木の生長に合わせ、添え木の設置を行いました。

また、この植樹地域の歩道の草刈も併せて行いました。



作業後は、雑草もなくなり非常にキレイになりました。

植樹した広葉樹は、みなさんのおかげで年々生長しています。



また、午後からは幌岩山へ移動し、



ギンリョウソウ

遊歩道を散策しました。ジンヨウイチャクソウやギンリョウソウを観察するとともに展望台からの見晴らしを楽しみました。

天候にも恵まれ、遠く知床連山まで見通すことができました。

＜モニタリング調査＞

モニタリング調査は、自然再生モデル林内で経年変化等に伴う森林の移り変わり等を把握・分析するとともに、「オホーツクの森自然再生モデル事業」の検証のための資料収集等を目的に平成17年から実施しています。

平成26年度は、林分構造及び樹幹疎密度の変化や稚幼樹及び下層植生の変化を調べる植物調査、哺乳類や鳥類の種類変化を調べる動物調査、魚類（サクラマスなど）や底生動物（ニホンザリガニなど）を調べる水棲生物調査などを実施しました。



鳥類調査



林分構造調査

また、今回は、平成17年から26年まで行ったモニタリング調査のデータを比較して経年の変化がわかるようにグラフや表にしました。

調査結果については、近く当センターのホームページで公表します。

モニタリング調査実施状況 ●は調査開始年度

調査項目	調査実施年度									
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
林分構造調査等	●		○		○					○
下層植生調査	●		○		○		○			○
哺乳類調査	●		○		○		○			○
鳥類調査	●		○		○		○			○
水棲生物調査							●	○		○

＜野生動物自動撮影（7月・10月実施）＞

撮影を始めてから7年目の今年、初めてヨタカやミンクが撮影されました。また、エゾタヌキやエゾシカ、キタキツネ、エゾユキウサギなども撮影されており、10種の動物を確認することができました。

森林が豊かになり、餌になるものが増えてきたのでしょうか。ミンク（特定外来生物）が気になります…。



エゾシカ



エゾタヌキ



キタキツネ



ミンク



ヨタカ



エゾユキウサギ

※森林総合研究所北海道支所のHP
(<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>)
で、北海道の野生生物の観測結果を見ることができます。

森林環境教育の取り組み

＜ボランティア育樹＞

6月12日、常呂小学校、端野小学校、常呂漁協、一般市民など、およそ150名が参加して「第11回オホーツクの森ボランティア育樹」を行いました。



今年は、昨年に引き続き、アカエゾマツ人工林（昭和61年植栽）の枝払いをしました。

初めのうちはノコの扱いにとまどいながらも段々と慣れ、「もっと切りたかった」などの声も聞かれました。

午後からは、森林散策・山菜採取に分かれ、それぞれにオホーツクの森を楽しみました。



6月12日（木）天気 名前（ ）
育樹体験
木の文太はらいで文太を切るときは、のこぎりを
ま、すぐ切ったら切れると言ったことをやたら
かんたんに言われてさきよく切れた。強い文太
がすく切りすらくて、はい！文太が切れやす
のがすくらしくて、だからおしさんに聞いてみ
たら、のこぎりののはおしさんに文太がはさま。て強い
文太がきれにくくて言っていた。
しごうしてくれんかたへ
今日は、いろんなことをし、はげしくおしえてくれ、あ
りがとうございました。
4はん

<日本赤十字北海道看護大学>

6月26・27日、日本赤十字北海道看護大学からの要請を受け、一年生85名を対象に総合科目Ⅰ「北海道の自然と文化」の授業を行いました。

26日は、「地球温暖化の問題」「森林の果たす役割」などの講義、27日は野付牛公園で屋外授業（フィールドワーク）を実施しました。

フィールドワークは、「身近な自然を見つめ直すこと」を目的に森林ボランティア「オホーツクの会」の協力を得ながら、8グループに分かれて行いました。



途中、ネイチャーゲームを交えながら、およそ2時間30分にわたり公園を散策し、植物の生きるための工夫、虫や鳥、動物などとの関わりを学びました。

参加した学生からは「自然にふれあうことができ楽しかった」「普段、何気なく見ているものにも色々な特徴があることを知った」などの感想が寄せられました。

<こども探検隊>

7月26日、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力のもと、「オホーツクの森こども探検隊」を行いました。

市内の小学生24名が4班に分かれて森林に入り、「セミの抜け殻」「キツツキの穴」を探す、トラン



シーバーで交信などのミッションに挑戦しました。

また、立木を利用したブランコやターザンロープ、木の枝やマツボックリを使った工作など、自然の中で夏休みの一日を楽しみました。



<企業・団体支援>

9月6日、北辰土建（株）の要請を受け、ボーイスカウト北見第2団の皆さんも参加した「植樹活動・オホーツクの森づくり」を支援しました。

これは、企業としての社会貢献と合わせて、地球温暖化防止等の環境保全、緑化活動等を通じた社員の意識づくりのために平成21年から実施されているものです。

今年は、平成21～23年に植えた木がどのように育っているかを調査するとともに太陽の光がたくさん当たるように周囲のササや雑草を刈り払いました。



10月19日、網走市教育委員会の要請を受けて、「あばしり学講座」『美岬の森探索～秋の味覚と森の巨人～』の支援活動を行いました。



林野庁の「森の巨人たち100選」に選ばれている『美岬のヤチダモ』などの森林散策と合わせ、途中で採取したヤマブドウを参加者でジュースにして味わいました。

独特の甘酸っぱい香りが口中に広がりました（子どもたちには不評？）。

また、ボランティア団体の行う自然観察・森林散策会等の支援活動を行いました。

**常呂川森林ふれあい推進センターでは、学校、企業、団体などの森林づくりや森林散策などの活動支援を行っています。
気軽にお問い合わせ下さい。**

<森林教室>

1月23日、ネイパル北見（北見市常呂町栄浦）で浜佐呂間小学校の「森林教室」を実施しました。

森林教室では、3～5年生、10名を対象に、スノーシューで森林散策しながら、ルーペを使っていろいろなものを観察したり、雪の上に寝たりしました。

途中、1メートルを超えるミズナラがあり、その周囲は3人が手をつないでも届かず、「樹齢はおよそ300年」との説明には驚きの声がありました。



<フィールド見学・意見交換会>

8月22日、オホーツク管内の国有林の職員16名を対象に、当センターで行っている自然再生事業、森林環境教育の「勉強会」を行いました。

これは、当センターの業務への理解を深めるとともに各地域で森林とふれあう場の提供や案内が求められていることから、ボランティアによる森林づくりや森林教室の進め方などを学ぶ場として実施したものです。



参加した職員からは「楽しく学ぶことができた。」「署でも森林教室などを開きたい。今後の仕事に活用できると思う。」などの感想がありました。

その他の取り組み

<パネル展示等でオホーツクの森をPR>

オホーツクの森林・自然や当センターの活動などを知ってもらうため、色々な場所でパネル展示やクラフト作成などの取り組みを行っています。

【緑と花の春の園芸祭】

5月3～10日

サンドーム北見

【オホーツク木のフェスティバル】

5月16～18日

サンドーム北見

【森林フェスティバル】

7月11～13日 網走市「こまば木のひろば」

【森へおいでよ！パネル展】

10月4～13日 緑のセンター

【道民森づくりネットワークの集い2014】

10月18日 道庁赤れんが前

【みどりネットワーク全体会議】

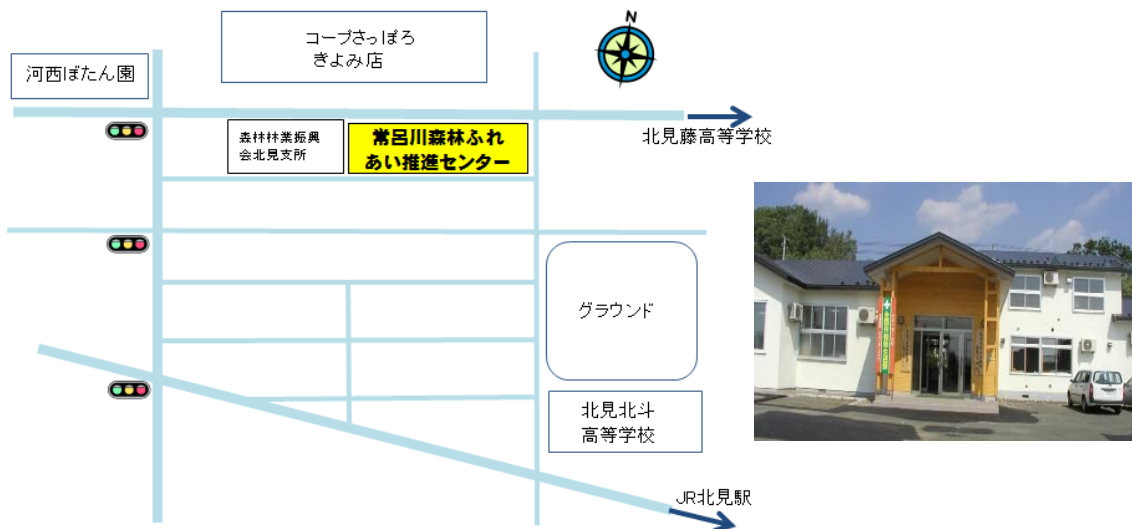
3月10日 オホーツク総合振興局



<その他>

北見市民植樹祭（5月18日）、緑の街頭募金活動（4月23日）、ワッカ原生花園での外来種（イタチハギ）駆除活動（9月19日）、北の国・森林づくり技術交流発表会への参加（1月29・30日）など、森林づくりに関わる取り組みや緑の普及活動などの取り組みを進めてきました。





北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター
http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/
090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3
TEL 0157-23-2960
FAX 0157-26-2144